

科目ナンバー	C7404	要件	教職必修 保育必修	授業形態	演習	対象学生	II A C D
授業科目	保育内容演習 (健康)						
実施期	前期	単位数	1単位	授業者 担当者	山村 悦子		
【科目の概要】							
乳幼児期の子どもの特徴や健康的な生活など、発育・発達の基本的理解とともに、乳幼児の心身の健康を助長する保育者の役割、保育の現場での健康・安全指導などについて、グループ討議や発表を通して基本を学ぶ。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	心身の発育・発達や、領域「健康」のねらい・内容を踏まえた基本的な知識を身に付けている。						1-d
イ	乳幼児期ならではの健康な心身を育てるための基本的な援助のしかたを身に付けている。						2-c
ウ	子どもの健康に関わる問題について、保育者としてどのように対処すべきかを考えることができる。						3-c
エ	自ら心と体を動かすことを楽しみ、子どもにとって身近なモデルとして自己の向上に努めている。						4-d
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	本科目のねらい、授業展開などについて			月 日	シラバスを読んでおく。		
2	幼児にとっての健康とは			月 日	幼児の健康の課題を調べておく。 (0.5時間)		
3	幼稚園教育要領における「健康」とは			月 日	解説「健康」を読んでおく。 (0.5時間)		
4	保育所保育指針における「健康」とは			月 日	解説書「健康」を読んでおく。 (0.5時間)		
5	新しい時代に向けた幼児期の「健康」			月 日	小学校との連携について調べておく。 (0.5時間)		
6	幼児の発育・発達 (からだ) ・DVD視聴			月 日	スキヤモンの発育・発達曲線を調べておく。 (0.5時間)		
7	幼児の発育・発達 (こころ) ・DVD視聴			月 日	発育・発達の特徴を調べておく。 (0.5時間)		
8	幼児の生活習慣と健康 (保健だより作成) (獲得を目指す力の確認)			月 日	生活習慣についてまとめておく。 (0.5時間)		
9	幼児の健康維持・増進のための身体活動・グループ発表			月 日	幼児期運動指針を読んでおく。		
10	保育における運動指導と留意点			月 日	運動遊びや用具などを調べておく。		
11	特別支援児に対する健康教育と運動指導			月 日	留意事項をまとめておく。 (0.5時間)		
12	健全な発育・発達の測定と評価方法			月 日	評価方法についてまとめておく。		
13	安全管理と安全教育			月 日	学内の施設等の安全について調べておく。 (0.5時間)		
14	応急処置法			月 日	応急処置法をまとめておく。 (0.5時間)		
15	運動遊びの事例研究 (発表)			月 日	運動遊びを調べておく。 (0.5時間)		
16	まとめと試験			月 日			
【教科書・テキスト】				【成績評価の方法】			
「保育内容健康」 編集代表 春日晃章 (みらい)				受講態度20%、 提出物・実技30%、 試験50%			
【参考書・教材】							
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 必要に応じて資料プリントを配付する。							
【履修要件及び履修上の注意事項】							
日ごろから運動遊び等の事例を収集し、発表できるようにしておくこと。							
【履修上の遵守事項】							
活動にふさわしい服装を心がけ、授業に参加すること。 30分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。							
【連絡先・オフィスアワー】							
連絡先:				オフィスアワー:			

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア	①	領域「健康」の意義、ねらい及び内容	幼稚園教育要領や保育所保育指針における領域「健康」のねらい及び内容について述べることができる。	領域「健康」のねらい及び内容と他の領域とを関連付けて述べることができる。	領域「健康」のねらい及び内容と、子どもを取り巻く現状への対応を関連付けて具体的に説明することができる。
ア	②	発達段階や課題に応じた生活リズムと基本的な生活習慣	乳児期の生活リズムや基本的な生活習慣とはどのようなことか説明することができる。	良好な生活リズムや、基本的な生活習慣を獲得するための指導法について述べるることができる。	良好な生活リズムや、基本的な生活習慣を獲得するための、発達段階や課題に応じた指導法について自分なりに考え説明することができる。
イ		乳幼児期に身に付けたい基本的動作や年齢による特徴など、発達段階に応じた指導や環境構成	乳幼児期に身に付けたい基本的動作や、年齢による特徴などを述べることができる。	子どもが楽しみながら活動できる環境構成や援助について述べることができる。	子どもの発育を考慮した環境構成や、安心して取り組める援助をすることができる。
ウ		「運動」「食育」「生活習慣」など、子どもたちの健全な成長と家庭との連携	「運動」「食育」「生活習慣」など、乳幼児の健康を取り巻く諸問題を述べることができる。	「運動」「食育」「生活習慣」などについて、社会の情報や出来事から、関心をもつ事項が3点以上ある。	社会の情報や出来事から、関心をもつ事項や課題に即して、家庭と連携した取組と結びつけて述べることができる。
エ	①	園庭にある固定遊具や移動可能な遊具や用具、鬼遊び、集団遊び、玩具、うた遊びなどの伝承遊びなどへの関心	園庭にある固定遊具や移動可能な遊具や用具を使ってできる遊びを5種類以上指導できる。	鬼遊び、集団遊び、玩具、うた遊びなどの伝承遊びを5種類以上指導できる。	鬼遊び、集団遊び、玩具、うた遊びなどの伝承遊びや、身近にある遊具や用具を使って、より多くの遊びの方法を考え行うことができる。
エ	②	生活リズムや生活習慣、運動などモデルとしての保育者の在り方	生活リズムや生活習慣、運動などについて、自分を振り返り課題を述べるができる。	生活リズムや生活習慣、運動などについて、自身の課題に対する改善方法を考え取り組んでいる。	改善の方法や成果を通して、子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う指導に生かすことができる。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					